



やすらぎの森海神

食事作りもお願いしております！

昼食は毎食手作り



バランスの良い食事を提供！
低価格の450円！

ぜひお問い合わせ下さい！

047-401-0550



やすらぎの森海神

電話・FAX47-401-0550

特徴：1 ドールでの有償ボランティア活動

1時間のお仕事で現金300円の対価が頂けます！

(清掃・内職作業・消毒 座って作業できます)



特徴：2 自由にお過ごし頂けます

決まったスケジュールはございません。

散歩・調理・体操…ご自身のペースでお過ごし頂けます。



その他：昼食は毎食手作り 450円！

入浴も個浴にてゆっくりとご入浴いただけます。

1日10名ですのでゆっくり楽しくお過ごし頂けます。

「ドトールコーヒーショップ」船橋駅南口店

カフェでの就労 社会参加に

千葉県船橋市のコーヒーチェーン店「ドトールコーヒーショップ 船橋駅南口店」では、10月より通所介護の利用者による有償ボランティアを受入れている。職員が見守る傍ら、清掃・消毒作業やバーガーの袋折りなど約1時間の作業に対し、300円の報酬が発生。役割が与えられ「自分が必要とされている」と感じることで、本人の意欲向上につながっている。また、店舗側の業務負担も軽減され、よりよいサービスが提供可能に。地域と在宅高齢者を結ぶ新たな取組みを取材した。

今までは、これらバックヤード業務は店舗スタッフが行っていたが、業務過多が常態化していたと店長の梶原佐巳さん。「家に持ち帰って作業していたスタッフもいた。有償ボランティア採用後は明らかに負担が減り、より接客サービスに専念しやすくなった」と話す。



「雇用人材の多様化を目指す」と梶さん

「目的が『仕事をしに行く』に切替わったことで、利用意欲につながった人もいるようだ。取材時、活動に訪れたのは全員が認知症の利用者で、要介護1が2人、要介護2が1人。9月の活動開始当初は立ち仕事を憂慮して椅子を準備したが、現在は誰も使用していない。



エプロン姿が板につく(後列右端が佐藤さん、前列左から浦田さん、菊池さん、鈴木さん)

が主な作業場だが、「今後はフロアに出て、客席の清掃なども任せていきたい」と梶さん。「お客さんともコミュニケーションをとって、誰が見ても高齢者の働く場が当たり前になる空間になれば」と述べる。また、時には利用者の家族が様子を見に来ることも。同デイ管理者の池田直樹さんは「デイ利用時の姿を見て安心してもらえる良い機会」とする一方、独居の利用者の家族に向けてもSNSで仕事中の様子を発信しているという。

特に助かるのは梶さんが言うのが、ピークタイム時のコーヒー豆の計量。はかりにかける

後は一単位で過不足の調整が必要。忙しい時間帯はコーヒーの抽出に遅れが出ないことが大切。スピードが求められる中で、かなり神経を使う(梶さん)。

利用者の一人、菊池久子さんが最初に担当したのは、バーガーの袋折り。手本に倣い、素早く丁寧に袋を折っていく。「こういう黙々とやる作業が私には合っているのよ」と、15分ほどで1ルマの枚数を折り終えた。

「やすらぎの森海神」生活相談員の角谷美恵さんは「二つの作業に集中して取り組んでくれるので、毎回手際の良さとスピードに驚かされる。些細なことにも気が付くので、本当に助かる」と話す。

同プロジェクトのコーディネーターを務める佐藤つぐみさん(船橋市議会議員/ケアマネジャー)は「生産年齢人口が今後ますます減る中で、必要不可欠な取組み。病気や障がいがあっても生産側に回れる支援を、地域で作っていかなくてはならない」と強調。社会参加を続けることは在宅生活の継続にも重要なことと話す。

生活 ケア



一連載 ①

デイ利用者がドトールで働く時間は、午前10〜11時または午後2〜3時の1時間ほど

ど。機能訓練、社会参加の一環として、通所の利用時間中に作業を行う。報酬は1回(1時間)300円、またはドトールで使用できるギフトカードを支給する。現在は船橋市内の2事業所が参加している。仕事内容は清掃・消毒作業やバーガー袋折り、さらにコーヒー豆の計量など幅広い。ホワイトボードにその日の作業内容を記し、通所の職員が傍につきながら適宜指示とサポートを行う。



連携してテイクアウト用セットを作っていく(中央が池田さん)

有償ボランティアを派遣する「やすらぎの森海神」(地域密着型通所介護)では、その日の機能訓練メニューを利用者自身が選択するのが特長。その中で有償ボランティアは人気が高い。「デイに行



92gのコーヒー豆を計量(右が角谷さん)

「やすらぎの森海神」生活相談員の角谷美恵さんは「二つの作業に集中して取り組んでくれるので、毎回手際の良さとスピードに驚かされる。些細なことにも気が付くので、本当に助かる」と話す。

同プロジェクトのコーディネーターを務める佐藤つぐみさん(船橋市議会議員/ケアマネジャー)は「生産年齢人口が今後ますます減る中で、必要不可欠な取組み。病気や障がいがあっても生産側に回れる支援を、地域で作っていかなくてはならない」と強調。社会参加を続けることは在宅生活の継続にも重要なことと話す。

シルバー産業新聞様に
ドトールでの有償ボランティア活動が掲載されました

やすらぎの森海神

TEL/FAX 047-401-0550